



ペットのための災害への備え

～日頃の準備が、いざというときの安心につながります～



災害は突然起こります。いざというとき、ペットを守れるのは飼い主です。

避難が必要になった場合に落ち着いて行動できるよう、日頃から備えておきましょう。

まずは飼い主自身の安全を確保し、必要な場合はペットと一緒に安全な場所へ避難することが大切です。

日頃から備えておきたいこと

●住まいと飼養場所の防災対策

家具の転倒防止やケージの置き場所の見直しなど、住まいの安全対策を行いましょう。

また、ペットが落ち着いて過ごせる場所を日頃から確保しておきましょう。

●しつけと健康管理

避難所や慣れない場所でも落ち着いて過ごせるよう、ケージやキャリーバッグに慣らしておき、犬は「待て」「おいで」「お座り」「伏せ」などの基本的なしつけ、猫は決まった場所で排せつできるようにしておくことが大切です。

また、ワクチン接種や寄生虫対策など、日頃から健康管理に注意しましょう。

【犬の場合】

- ☐ 「待て」「おいで」等の基本的なしつけができる
- ☐ 嫌がらずにケージ等の中に入れる
- ☐ おやみに吠えないようにしている
- ☐ 人や他の動物を怖がったり攻撃しない
- ☐ 決められた場所で排せつできる
- ☐ 狂犬病予防注射等を接種している
- ☐ フィラリアなど寄生虫の予防、駆除をしている

【猫の場合】

- ☐ 嫌がらずにケージ等の中に入れる
- ☐ 人や他の動物を怖がらない
- ☐ 決められた場所で排せつできる
- ☐ 室内で安全に飼養している
- ☐ 各種ワクチンを接種している
- ☐ 寄生虫の予防、駆除をしている



●所有者明示

災害時は、ペットが驚いて逃げてしまうことがあります。

迷子になったときに飼い主が分かるよう、迷子札や鑑札、マイクロチップ、足環などで所有者を明示しておきましょう。

あわせて、ペットの写真を用意しておく、確認や搜索に役立ちます。

●避難用品・備蓄品の準備

ペットフードや飲み水、薬、トイレ用品などは、少なくとも 5 日分、できれば 7 日以上を目安に備えておきましょう。

必要なものはすぐ持ち出せるよう、身近なところにまとめて置いておきましょう。

【ペットの備蓄品と、持ち出す際の優先順位の例】

1 動物の健康や命にかかわるもの

- ☐療法食、薬
- ☐ペットフード、水(5日分以上)
- ☐ケージ・キャリーバック
- ☐予備の首輪、リード(伸びないもの)
- ☐ペットシート
- ☐排せつ物の処理用具
- ☐トイレ用品
- ☐食器



2 飼い主やペットの情報

- ☐飼い主等の連絡先メモ
- ☐ペットの写真(全身写真を複数枚等)
- ☐ワクチン接種や健康状態の記録など



3 ペット用品

- ☐タオル、ブラシ
- ☐ウェットタオルや洗浄綿
- ☐ビニール袋
- ☐お気に入りのおもちゃなど匂いがついた用品
- ☐洗濯ネット(猫の場合)
- ☐ガムテープやマジック



日頃の飼い方も大切です

災害時に備えるためには、日頃の飼い方を見直しておくことも大切です。

【頭数を考える】

一緒に連れて避難できる頭数は限られているため、飼える頭数をよく考え、無理のない範囲で飼いましょう。

【猫は室内飼い】

猫が外にいと災害時に呼び戻しができないため、避難の時に連れていけません。猫を室内で飼うことは、普段からの健康と安全を守ると同時に、災害への重要な備えとなります。

ペットとの同行避難を考えておきましょう

災害時に自宅で過ごすことが危険な場合は、ペットと一緒に安全な場所へ避難する「同行避難」が基本です。ただし、まずは飼い主の安全確保が最優先です。

ペットは決められた場所で管理しましょう

避難所には、動物が苦手な方やアレルギーのある方もいます。

ペットは、避難所敷地内に設けられたペット専用スペース等で管理し、鳴き声や臭い、衛生面に配慮しましょう。

ペットの飼育や世話は、原則として飼い主の責任で行います。

※身体障がい者補助犬は、必要に応じて居住スペースで同居することがあります。

ペットの防災対策について詳しくは↓

人とペットの災害対策ガイドライン(環境省)

串本町役場 ペット関係 住民課(環境グループ) 0735-67-7217
防災関係 総務課(防災グループ) 0735-62-0555

